海辺の歌人 糟谷磯丸ってどんな人？

糟谷磯丸は、今からちょうど 250 年前の明和元年（1764）５月３日、伊良湖村（現在の田原市伊良湖町）の漁師の家の、長男として生まれ、名前を新之丞といいました。

その頃の伊良湖村は他の村々と同じように、海で魚を捕ったり田畑で作物を作ったりして暮らしていましたが、その生活は豊かなものではありませんでした。

新之丞は、31 歳の時に父を亡くし、母も長い間病気だったため、小さい時から隣村の日出村へ奉公に出たり、漁をして暮らしを支えていました。

親孝行の新之丞は、母の病気が早く治るように、海の水で体を清め、近くの伊良湖明神に３年もの間裸参りを続けました。その親孝行の気持ちが神様に通じたのか、母の病気はしだいに良くなっていったのです。

伊良湖明神へ裸参りを続けるある日のこと、一人の旅人が神社に懸けてある額を見上げて、そこに書いてある字を読んでいました。新之丞は不思議に思い、旅の人に「あなたはここで何を読んでいるのですか？」とたずねると 「私はここに書いてある和歌を読んでいるのですよ。」とその旅人は答えました。

新之丞は和歌の不思議な響きに心を惹かれ、このことが和歌を志すきっかけとなりました。新之丞 35 歳の頃でした。

新之丞はもともと漁師で文字を書いたり読んだりすることが出来ませんでしたが、歌に興味を持ち、作りはじめると、少しずつ読み書きができるようになりました。